

定年退職を迎えるにあたって

工作部門 堀 三計

2012年4月に筑波大学に着任してから8年、2020年3月に定年退職を迎えます。教職員並びに学生の皆様のお陰で無事に勤めを全うできたことを、とてもありがたく、幸せなことであったと感謝しております。

工作部門での8年間は、部門の運営、管理、工作相談などで瞬く間に過ぎ去りました。また、筑波大学では機械加工や工作機械を専門とする唯一の教員でしたので、関わった学生には機械加工や工作機械について少しでも知って貰うように努めたつもりです。

この間、新たにワイヤ放電加工機やターニングセンタ、小型立てフライス盤、卓上CNCフライス盤、測定顕微鏡用のデジタルカメラ計測システムが加わり、多少は作業環境が整ったのではないかと思います。

また、2013年度からは工作部門の工作依頼（委託業務）や一部の工作機械が筑波大学オープンファシリティ^注に登録され、利便性の向上が図られました。

工作部門には様々な分野の教職員や学生から加工の相談や依頼がきます。装置や構造物、部品について多種多様な相談や依頼があり、知らないことも多く毎回勉強の場でした。特に芸術系の依頼は感性によるものが多く、機械部品とは違った面白さがありました。

機械工作にしろ、ガラス工作にしろ、ものをつくるには時間が掛かります。以前に比べると技術職員の人数も少なく、特に依頼が混み合う時期には完成までにずいぶん待たせることもあり、依頼者には大変ご迷惑をおかけしました。今後、新しい工作機械が導入されれば加工の効率化が図られると思いますが、加工するのは人です。技術の伝承も含めてものづくりに携わる技術職員が少なくなることを大変危惧しております。特に、ものづくりに関するノウハウが途切れてしまうと回復するのに大変な時間が掛かる、否、回復できなくなります。この点からも人を繋いでいく必要があると思います。

他方、学内にある工作部門では教職員や学生が気軽に相談に来たり、加工中に仕様を変更したりと、依頼者と製作者が密にコミュニケーションをとりながら製作することができます。これは学内の工作部門であるからこそできる大きな利点です。学内にこのような施設があることは教職員、学生にとって大変幸せなことではないでしょうか。

工作部門での8年間は短い間でしたが、私も多少は皆様のお役に立てたのではないかと考えております。

最後になりましたが、本学の皆様には大変お世話になり心から御礼申し上げます。また、筑波大学、研究基盤総合センター、及び、工作部門の益々のご発展をお祈り申し上げます。

注) オープンファシリティとは、国立大学法人筑波大学が保有する研究設備の有効利用を図ることにより、最先端の機器を容易に利用できるようにするシステムです。(オープンファシリティ推進室ホームページ参照。<http://openfacility.sec.tsukuba.ac.jp/>)